

ペットを飼う前に考える10の条件

ペットは私たちの生活に安らぎをもたらしてくれます。一方で、飼い主の都合で飼えなくなって手放される犬や猫もいます。その理由は、引越しや出産、ペットの問題行動や病気、飼い主の高齢化、病気や入院など様々です。「かわいい」という気持ちだけで動物を飼うことはできません。ペットを飼う前に、自分が最期まで責任を持って飼えるのか、10の条件を満たしているかどうか考えてみましょう。

①住宅がペットを飼える状況にあること

ペットと安心して暮らすためには、ペットを飼える住宅に住んでいることが絶対条件です。また、「ペット飼育可」の集合住宅であっても決められたルールを守り、その集合住宅地内はもとより、周辺の住宅や環境への配慮を心掛けなければなりません。

ペット可



②ペットを迎えることに家族全員の合意があること

ペットを飼うには、家族の理解と協力が不可欠です。家族全員が、迎え入れたペットの飼い主として接しましょう。

③動物アレルギーの心配がないこと

家族内に動物アレルギー体質の方がいないか事前に検査をしておきましょう。もし動物アレルギー発症の可能性があれば、どのような対策を講じるか、飼う、飼わないも含めて家族内で十分話し合いをしましょう。



④そのペットの寿命まで(終生飼養)飼育する覚悟があること

犬も猫も、適正に飼育すれば10年以上生きることができる動物です。動物を迎え入れた家庭はそのペットの命、寿命を全うするまで預かることになるのです。10年以上にわたって給餌、給水、快適な生活環境、健康管理を続けなければなりません。

⑤世話をする体力があり、その時間を割けること

ペットを家族に迎えれば、飼い主は当然そのペットのために時間を割かなければなりません。食餌や水を適切に与え、トイレの掃除、快適な生活空間の維持、犬の場合は散歩、種類によってはブラッシングやトリミングなどの手入れ、これらをこなせる体力と時間がなくてはなりません。





⑥高齢になったペットの介護をする心構えがあること

ペットも年齢を重ねると老衰や認知症になるケースが増えてきます。ペットを家族として迎える以上、高齢になったペットの介護をする心構えも必要です。

⑦経済的負担を考慮すること

ペットは生きています。食餌代だけではなく、生活用品、ワクチン代など、人と同じようにいろいろな費用がかかります。特に医療費は、病気や怪我によっては思わぬ高額になる場合もあります。ペットを家族に迎え入れれば経済的に負担がかかるということも承知しておく必要があります。



⑧必要なしつけと周囲への配慮ができること

犬を迎えたとき、人と犬が幸せに暮らすためには、犬のしつけが必要です。ペットが周囲の人に迷惑をかけず、人と快適に暮らせるようになるために、生活上のルールを教えてあげましょう。また、飼い主もペットを飼ううえでのマナーを十分にこころえ、家庭外、近隣社会に対して迷惑をかけないように配慮することが必要です。

⑨引っ越しや転勤の際にも継続飼養する 覚悟があること

家族構成や、生活環境の変化、仕事の都合などで転居する必要がある場合があります。しかし、ペットを家族として迎え入れているのであれば、転居先にペット飼育可の住宅を探すなど、ペットの継続飼養を心掛けなければなりません。



⑩飼えなくなった場合の受け皿を考えておくこと

これまで、①～⑨でペットを飼ううえでの心構えを考えてきましたが、それでも不慮の事故など、様々な事情で飼えなくなってしまうケースが出てくることもあるかもしれません。万が一の際に、代わりに飼ってくれる人を見つけておくことも重要です。

ペットを飼い始めたその日から、その**命**はあなたにゆだねられます。

長い時間をともに過ごすペットを**責任**と**愛情**を持って迎えてください。

名張市役所地域環境部 環境対策室
0595-63-7492